

福井県私学の公費助成をすすめる会 すすめる会NEWS

Issue No. 19 | 2024 12月号 | 私学助成 街頭署名

▶3日間の私学助成学習会

12月16日(月)～18日(水)の3日間、ZOOMでの私学助成の学習会がおこなわれました。この学習会はオムニバス形式で、日によって講師が異なるスタイルでした。講師は、1日目は仁愛女子高校教員・福井県私学の公費助成をすすめる会事務局の奥出雅文さん、2日目は仁愛OG・福井県私学の公費助成をすすめる会会長の竹澤佑未さん。3日目は仁愛女子高校3年のYさん、Kさんでした。

私学助成制度が充実しないことで起こる問題（学費の自治体間格差、教育の質の低下・慢性的な非常勤講師率の高さ、家庭の経済的不安による子どもたちの傷つきなど）を4名の講師が概説し、私学助成の拡充の必要性を確認し合い、19日(木)に控える街頭署名に向けて意識を高め合う会となりました。街頭署名経験者からは、声を掛ける時のコツや想定問答などが語られる場面もあり、「心が折れる場面もあるけれど、強いメンタルを持って臨もう！」と参加者を鼓舞するコメントもありました。参加者は、第一回13名、第二回16名、第三回21名となり、仁愛生だけでなく他の私立学校からも参加者が集まりました。

普段の授業では教わらないような現代社会における学費問題に直面し、「これから勉強していき、教育格差をなくしていきたい。また、先生たちの労働状況が教育の質に直結するということを知ることができたのもよかった。」というような感想が多くの参加者から出てきました。

▶街頭署名 本番！ 一合計239筆

19日(木)17:30から18:30までの一時間、「教育費負担の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきといた教育を求める私学助成署名」を集めるため、福井駅前にて街頭署名をおこないました。総参加数は32名（高校生26名、教員4名、父母1名、卒業生1名）となり、高校生は仁愛生だけにとどまらず、他校の私立公立を合わせて5校が参加しました。雨雪が降る帰宅ラッシュの時間帯という悪条件のなか県内の5校の高校生が福井駅前に集い、生徒・教員・父母・卒業生の四者での署名活動となりました。当初の目標署名数は150筆で、悪条件下での署名に対して心配の声も少なくありませんでした。しかし、結果は計239筆となり、ある高校生グループは30筆を越える署名を集めることができました。初めて街頭署名に立った生徒も多く、緊張や不安のあるなかでおこなわれましたが、

「率直に楽しかった」という感想を多く残しています。知らない人に声を掛ける怖さや、署名を断られたり無視されたりするときのショックもあったはず。ある高校生は「私立を選んだのは自分なんだから、仕方ないことじゃないの？」と言われてしまった子もいたそうです。しかし、街頭署名に立つ前、彼女たちは事前学習会にて想定問答をもとにシミュレーションをしていました。彼女たちなりに言葉を尽くし、

自分たちの運動を伝えていく様子も見られました。「心が折れそうになったときに周りを見たら皆が声をあげて頑張っていた。自分も頑張らなきゃって励まされた。」と、共同して運動をすすめていくことの重要性を肌で実感できたことは大きな前進と言えるのではないのでしょうか。

★今後の活動予定★

- ・1月26日：福井県高校生交流集会
テーマ「NEW START」
- ・未定：街頭署名の実施
- ・2月22日～2月23日：北陸私学研究集会

▶感想交流会

街頭署名後、近隣の公的施設において感想交流会をおこないました。参加者は21名（高校生17名、教員4名）となり、街頭署名をうけての率直な感想から、高校生自主活動という運動についての思いなど、多様な角度からの感想を共有しました。以下、感想交流会での高校生のコメントを一部抜粋します。（本人たちによる文面の感想はまた後日共有いたします）

「街頭署名に参加する人数が増えたことが嬉しい」「不安な中でも皆とつながっている実感があって、他の子が署名してもらっているところを見たら、自分が署名してもらえたときよりも嬉しかった」「普段控えめな性格の自分から変わった」「初めは校内署名も街頭署名も怖いからしにくかったけど、参加しないと分からないことがある。次も参加しようと思った」「街頭署名に向けた準備など、先輩から仕事を振ってもらえてうれしかった。活動が広がっていく実感があり、楽しかった」「他校の子たちと一緒に活動できることが素直に楽しかった」「自分一人では絶対にできない、皆の力があつたから成功した」「街頭署名を大人数でやるから良さを感じた」「知らない人だとしても、自分たちと同じ思いの人は必ずいるって実感した」「初めはノリで参加してたけど、教育の問題をきちんと社会問題として自覚することができた」「事前学習会での話は難しく不安だったけど、だんだんわかってきた気がする。自分の成長を感じた」「署名の目的は名前を集めることじゃなくて、自分たちの運動や教育の問題を多くの人に知ってもらうことだ。今日の活動は必ず次につながる」「自分は公立高校だけど、公立私立は関係ない。この活動が僕ら自身を励ましてくれる」「自分たちは私学助成の問題を知っている。知っているからには説明する責任がある。多くの人がこの問題を知るきっかけを作っていきたい」「制度拡充があったおかげか、私学助成をしている人がいた。先輩たちがつくってきた運動があったからだと思う。自分たちもこの運動をもっと広げていきたい」「ふつうなら今は受験勉強をしていないとおかしいと思う。でも衝動を止められなかった。今やるべきなのはこの活動だと思ったから参加した。」「今まで意識してきた、〈たて・よこ・ななめのつながり〉が今回より深まった。他校でも、同じ高校生が頑張っているという実感が嬉しい。H君やN君が顔を見せてくれたとき、やっぱり嬉しい。企画・準備をするにあたって沢山悩んだけれど、KやM、H、Sが助けてくれた。」

事前学習会の第一回講師をつとめた奥出さんからは、感想交流会の総括としてこのような発言がありました。「今回の街頭署名が成功した背景には二つのポイントがある。一つは、学びと経験が同時に得られ、問題を自分事として落とし込み、このことが自分自身を成長させていると自覚できたこと。二つは、自分たちの運動が広がっていていることを実感できたこと。事前の学習会がなかったら、一人ひとりへの意識的な声掛けがなかったら今回の成功は成し得なかった。」この言葉をうけて涙ぐむ高校生もいました。また、生徒自主活動に関わっている教員3名に対する問題提起もありました。「自分たちのほうは発信し、つながり合うことができていたのか？自分たちの展望を自分の言葉で語ることはできるのか？」私たち大人が高校生たちと運動をともにするにあたって、私たちも生徒たちの運動から学び続けなければならないということを強調されました。ともに運動をしていくどころか、置いて行かれてしまうような状況になってしまう現状を懸念されての発言でした。高校生たちは学んで前進しつづけているのだから、私たちも負けずに社会づくりに主体的に参画していかなければならないのだと強く思われる総括となりました。「この活動は、やめたら終わるからね」と言ったAの言葉は、私学助成の問題だけに限らず社会運動全般に通じているものだと感じます。日々の学校生活や労働、家庭など、さまざまな事情をかかえて生きている私たちはなぜこの運動をするのでしょうか。「自分のことで精一杯」と言うことはできるはずなのに、この運動をやめてはいけなと考えるのは何に起因しているのでしょうか。それは、社会に残っているさまざまな問題が自分事に落とし込んでいるからだだと再確認しました。今回の街頭署名にむけて企画された事前学習会、直前の署名シミュレーション会、感想交流会は全て本番に向けて計画された運動です。彼女たちがつくりあげたこの運動から「社会づくり」を学び、先を見据えた動きを私たちも作っていきましょう。

